

二月のテーマ

まず自分から



え・城谷俊也

信は動いて 愛となる

S氏は石川県で社員100名ほどの理美容業を経営しています。理美容業界は、比較的離職率が高いといわれ、人の入れ替わりも激しいといえます。

S氏も社員の定着率に悩んでいました。たとえばある年は、5人入社しても、ゴールデンウィークに1人、お盆に1人と次々に辞めていき、結局1年で4人が退職してしまいました。

ある日、頼りにしていた店長とスタッフが退職願を持ってきました。人手が足りない上に、店長に辞められては店が回らないと困り果てていたところ、知人から、倫理経営講演会に誘われました。

その講演の中で、講師がI社という食品会社の経営理念を紹介していました。「社員が幸せになるような会社をつくり、それを通じて社会に貢献する」という言葉に触れ、S氏は自らを省みると同時に涙があふれてきました。

その後、モーニングセミナーにも参加し、『万人幸福の葉』十七カ条の内容を学ぶようになりました。

「苦難福門」「万象我師」「子女名優」など、自分にあてはまる事柄がたくさんあることを感じ、〈まず自分の考えや生活から変えていかなくては〉と決意しました。

そして、「社員を愛する、関心を持つ」と心に決め、具体的な行動に移していったのです。

①社員一人ひとりの給与明細に感謝の手紙を同封する。②毎日社員宛に「社長通信」と題したメールを送る。③毎月食事を行ない、親睦を深める。④各店舗を毎月訪問する。⑤社員と社員の家族の誕生日にプレゼントを贈る。

これらをコツコツ続けているうちに、社員の定着率は大きく上がりました。職場に活気が生まれ、社員も、仕事に誇りとやりがいを持つてくれるようになりました。

ところが〈これで大丈夫〉と安心していたところ、一人の店長がS氏と目を合わせないようになってのです。店舗の雰囲気も悪くなり、女性スタッフまで「辞めたい」と言いだしました。

このままではいけないと思った

S氏は、倫理指導を受けました。そこで言われたのは「薫化(くんか)」という言葉でした。「具体的には、社員さんが幸せに、笑顔になれるよう、朝晩お祈りしてください。相手にわからなくていいのです」

「祈るだけ」という内容を不思議に感じましたが、実践するうちに、〈社員のために〉という思いが、逆に〈してあげている〉という傲慢な心へと変わっていたことに気づいたのでした。それを社員は敏感に感じていたのでしょう。

1カ月2カ月と実践を続けるうちに、社内にも変化が表われてきました。挨拶の声が大きくなり、笑顔が増えてきたのです。辞めたと言っていた女性スタッフも、お客様から「あの子は成長したね、仕事も楽しそうだね」と言われるほどになりました。店長も自身の働き方を反省し、イキイキと働く姿が見られるようになったのです。人と人の心をつなぐものは愛情です。愛には限りがありません。純粹な祈りは、その無限の愛情をさらに磨いていくものなのです。